

# 平成30年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日	平成31年 3月 29日
研究・研修課題名	認定血液検査技師 資格取得試験
研究・研修組織名(所属)	検査部
研究・研修責任者名(所属)	定方 智美(検査部)
共同研究・研修実施者名(所属)	

区分	<input type="checkbox"/> 学会発表、 <input type="checkbox"/> 論文掲載、 <input checked="" type="checkbox"/> 資格取得、 <input type="checkbox"/> 認定更新、 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得、 <input type="checkbox"/> その他の成果( )
該当者名(所属)	定方 智美(検査部)
学会名(会期・場所)、認定名等	認定血液検査技師
演題名・認証交付先等	日本検査血液学会
取得日・認定期間等	2019.1.1～2023.12.31

## 目的及び方法、成果の内容

### ①目的

日本検査血液学会が認定する認定血液検査技師の資格取得を目指し、基礎的な知識および正確な検査技術を習得する。

認定血液検査技師資格は、血液検査分野における高度の学識と技術を有する臨床検査技師の育成を図り、より良質な医療を国民に提供することを目的とした制度である。認定血液検査技師の資格取得を目指すことにより、当院の血液検査のレベル向上が期待でき、また患者・臨床医への正確で付加価値の高い検査結果の提供、学生や研修医への教育、また後進の指導という観点でも有用である。

### ②方法

2018年11月10日に京都府立医科大学にて開催される指定研修会に参加し、翌11日に第17回認定血液検査技師試験を受験する。

- 指定研修会 (2018年11月10日 京都府立医科大学)
  - 12時30分 受付
  - 12時40分 オリエンテーション
  - 12時50分 開講式
  - 13時00分 講義①：遺伝子関連検査について
  - 13時45分 講義②：フローサイトメトリー関連検査について
  - 14時45分 講義③：リンパ節関連検査について
  - 15時30分 講義④：止血関連検査について
  - 16時15分 実技模擬試験
  - 17時15分 閉講式、指定研修会受講証明書配布
  - 17時30分 閉講
  
- 認定試験 (2018年11月11日 京都府立医科大学)
  - 9時00分 受付
  - 9時30分 実技試験開始
  - 10時40分 実技試験終了
  - 11時00分 細胞形態試験開始
  - 12時00分 細胞形態試験終了
  - 13時10分 筆記試験開始
  - 14時40分 筆記試験終了

● 出題方式

1. 筆記試験は、出題数 50 題。問題解答はマークシート形式、視覚教材使用あり。
2. 細胞形態試験（末梢血、骨髄の細胞画像）は、出題数 50 題。問題解答はマークシート形式。
3. 実技試験は、2 科目（末梢血の形態、骨髄の形態）症例問題形式、動画（形態観察）および画像による出題。問題解答は記述式。
4. 血液一般およびリンパ節の内容は、筆記試験にて問う。

③成 果

1. 指定研修会

講義①：遺伝子関連検査について

造血器腫瘍の分類をするにあたり、WHO 分類では染色体転座や遺伝子異常の有無が重要となる。遺伝子検査の基礎から疾患の分類に至るプロセスについてなど、特に重要な異常に比重をおいて解説があった。

講義②：フローサイトメトリー関連検査について

フローサイトメトリーの原理をはじめ、実際の症例を提示しながら検査・解析の解説があった。また、特に B 細胞リンパ腫における重要な抗体の組み合わせについての説明があり、試験にも出題されていた。

講義③：リンパ節関連検査について

リンパ節捺印標本の正しい作製方法、リンパ節の各種検査（鏡検・FCM・染色体検査・遺伝子検査・病理検査）について、また診断方法についての解説があった。検体採取から診断までのプロセスを網羅しており、大変勉強になった。

講義④：止血関連検査について

凝固・線溶カスケードを用いて、生体内の仕組みを学ぶことができた。覚えにくい部分ではあるが、簡単にまとめられていたため分かりやすかった。DIC などの病態を含めて解説いただいた。

2. まとめ

今回の試験結果は合格であった。

認定血液検査技師制度は、日本検査血液学会において血液検査分野における高度な知識と技術を有する臨床検査技師の育成をはかり、より良い医療を国民に提供することを目的として導入されている。

筆記試験は学会のカリキュラム委員会で定められた内容に従い、血液・凝固検査、輸血検査の分野が出題された。ごく稀な疾患など教科書的な知識を問う問題や、画像を用いた問題、日常の業務で必要とされる知識を問う問題が多く出題されていた。細胞形態試験は写真問題で、末梢血・骨髄に出現する血液細胞を正確に同定できることを問われていた。実技試験については、記述形式にて次の 3 つの目標を達成していることを問われた。①一般的な血液疾患、血液検査室で遭遇する疾患について、末梢血・骨髄の形態から簡単な臨床所見を参考に所見の判定ができ、追加検査の選択・検査室内指示、その結果の評価・解釈、およその形態診断、主治医への報告ができること。②末梢血の形態検査では、塗抹標本での形態（白血球、赤血球、血小板）をスクリーニングし、血球算定を参考として異常病態の拾い上げとその後の検査室としての適切な対応ができること。③骨髄の形態検査では塗抹標本での細胞形態判定、さらに特殊染色、染色体検査や細胞表面マーカーの結果を適切に解釈し、およその形態診断、主治医への報告ができること。

今回の試験においては、上記のように求められることが多い実技試験が特に難しかった。末梢血塗抹標本や骨髄塗抹標本の映像が一定時間動画で流れ、標本全体また各細胞の形態所見、特徴的な細胞所見を記入し、そこから鑑別を行い最も疑わしい疾患を挙げていくような問題であった。また確定診断に必要な追加検査等も問われ、疾患について総合的に理解している必要があった。基礎的な知識に加え、実践的でより専門性の高い知識が必要であると感じた。代表的な各疾患について、末梢血や骨髄塗抹標本を実際に観察して所見を見つけ、さらにどのような検査で確定診断に至るか理解を深めておくことが試験合格には重要である。

今回、血液検査に対する知識向上と検査技術のレベルアップを目標に認定試験を受験した。試験に向かって勉強したことによりたくさん知識を得ることができた。得た知識を今後の業務に役立てていきたい。

\* 認定血液検査技師制度協議会

認定血液検査技師 認定【2018年12月15日】